

欧米の原子力施設で働く三十万人以上を対象にした疫学調査で、一〇〇ミリシーベルト以下の低線量被ばくでも線量に依拠してがんによる死亡リスクが増えたとする分析結果を、国際チームが英医学誌BMJに発表した。

国連科学委員会などは被ばく線量が一〇〇ミリシーベルトを超えると発がんリスクが高まるが、一〇〇ミリシーベルト以下では明確なリスク上昇を確認できないとの見解を示している。

チームは一〇〇ミリシーベルト以下でも白血病のリスクが上昇するという調査結果を既に発表しているが、今回新たに肺や胃、肝臓など白血病以外のがん全体でリスクの上昇を確認したという。

チームは英国、米国、フランスの

## がんリスク 100ミリシーベルト以下でも増 2022年

原発や核燃料施設などで一九四四〜二〇〇五年の間に一年以上働いた約三十万八千三百人のうち、白血病以外のがんで死亡した一万九千六十四人について被ばく線量との関係を分析した。全作業員の積算線量は平均二〇・九ミリシーベルト相当だった。

分析の結果、被ばくがなくてもが

### 欧米の原発従事者30万人調査

んで死亡する可能性を一とした場合、一ミリシーベルトの被ばくごとに一万分の五程度死亡リスクが上昇すると推計され、上昇率は、これまで知られている高線量のデータと同程度だったという。一万九千六十四人のうちでは、二百九人が被ばくにより増えたがん死と推定されるとしている。

約31万人中、約2万人が発症

がん発症率 6.45%

累積100 mSv 以下でもリスク上昇率は同じ

1 mSv 上昇する毎に 0.05% リスクが増える

100 mSv まで約 5% リスクが増える